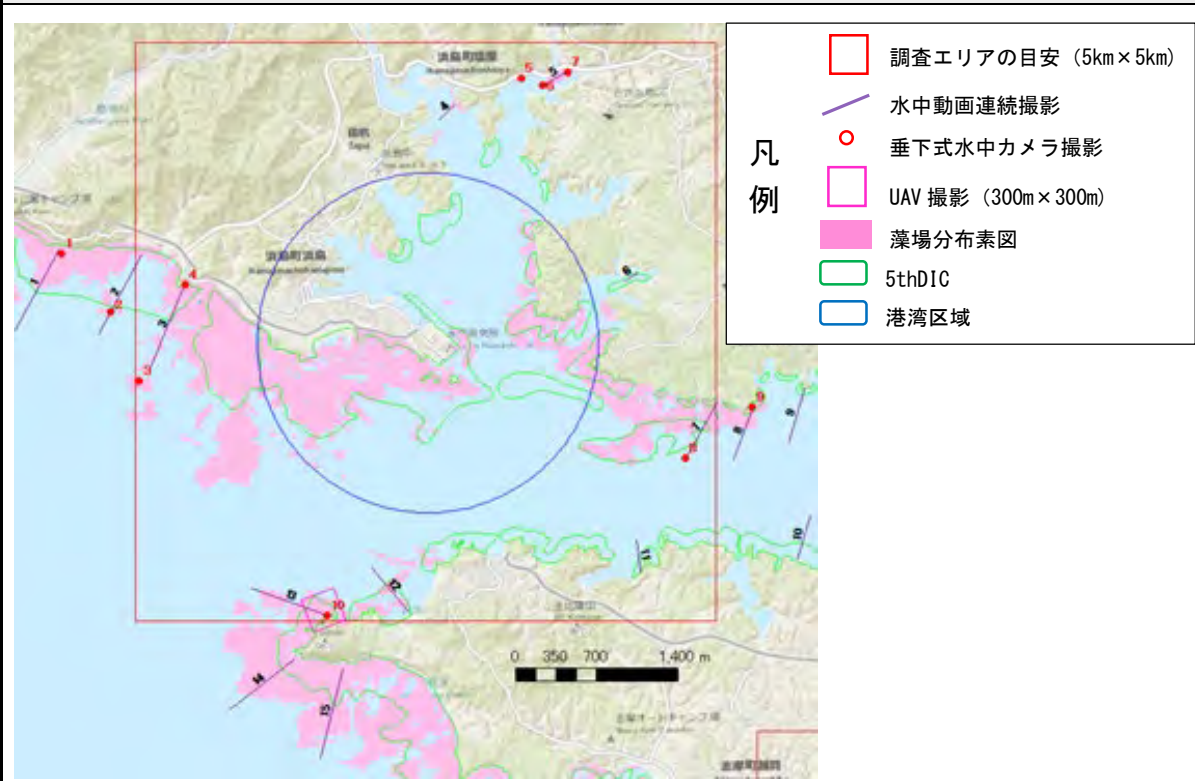


(1) 調査海域名	中部太平洋沿岸海区 浜島海域
(2) 調査海域の所在	三重県志摩市浜島
(3) 調査海域及び調査位置図	



(4) 調査位置の詳細 (JGD2011)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイト「現地調査の結果」の「調査結果（データ）」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン 番号	岸側基点				沖側基点				測線距離 (m)
	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	
1	-	-	-	-	-	-	-	-	—
2	-	-	-	-	-	-	-	-	—
3	-	-	-	-	-	-	-	-	—
4	-	-	-	-	-	-	-	-	—
6	-	-	-	-	-	-	-	-	—
7	-	-	-	-	-	-	-	-	—
8	-	-	-	-	-	-	-	-	—
9	-	-	-	-	-	-	-	-	—
10	-	-	-	-	-	-	-	-	—
11	-	-	-	-	-	-	-	-	—
12	-	-	-	-	-	-	-	-	—
13	-	-	-	-	-	-	-	-	—
14	-	-	-	-	-	-	-	-	—
15	-	-	-	-	-	-	-	-	—
総測線距離									—

※ 測線 5 はデータなし。

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
...	-	-	-	-
...	-	-	-	-
...	-	-	-	-
22	-	-	-	-
23	-	-	-	-

※ 計 23 地点

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影）】

調査地点	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日 2019 年 3 月 9 日、10 日

(6) 調査者 三洋テクノマリン株式会社 代表：北野慎容

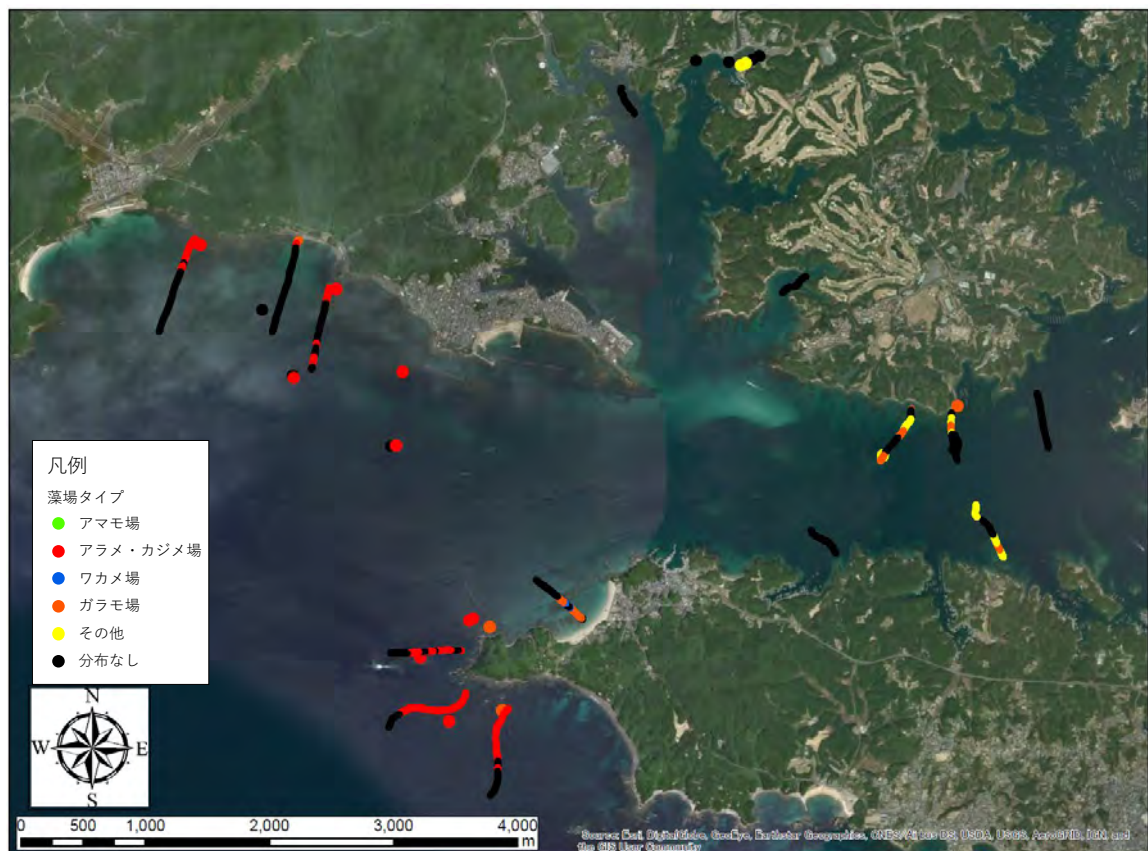
(7) 調査海域の概要

本海域は以下の理由から調査海域として選定した。

- ① 風況良好（平均風速 7m/s 以上）、② 浅海域が存在、③ 自然公園区域等ではない、④ 藻場分布素図にポリゴンが存在、⑤ 近年磯焼けが懸念される海域、内湾に位置する海域（既往知見では、アマモ場、ガラモ場、アラメ場、ワカメ場、テングサ場、その他）

(8) 調査結果

【水中動画連続撮影】○測線 1～11 の状況



- 測線 1 の状況：水深は約 3～17 m で、岸側は岩盤と礫、沖側は砂泥の測線であった。岸側的水深 4m 付近ではサガラメにホンダワラ類が混生し、その後水深 6m 程度までサガラメが分布した。水深 10m 付近にはカジメが見られ。砂泥底では海藻草類はなかった。
- 測線 2 の状況：水深は約 1～13m で、測線 1 と同様、岸側は岩盤と礫、沖側は砂泥の測線であった。水深 1.2m の岩盤上の一部でジョロモク、ヤナギモク、サガラメが見られた。
- 測線 3 の状況：水深は約 7～14m で、岩盤を主体とする測線であった。水深 8m 弱の一部岩礁でサガラメがみられた他、水深 8.8-13m でカジメが被度 25%未満で出現した。他は大型海藻や海草類はみられなかった。
- 測線 4 の状況：水深は約 9～11m で、すべて岩盤で構成される測線であった。ここでは海藻草類は見られなかった。
- 測線 6 の状況：水深は約 4～5m で、岩盤が主体の測線であった。シオミドロ類が海底を覆う状況で、海藻草類は見られなかった。
- 測線 7 の状況：水深は約 2～17 m で、岩盤、礫、砂泥と底質は多様であった。マメタワラ、ジョロモクなどホンダワラ類が 75%未満の被度で見られ、他の測線と異なった状況であった。
- 測線 8 の状況：水深は約 3～29 m で、底質はすべて砂泥の測線であった。ここでは大型海藻や海草類は見られなかった。
- 測線 9 の状況：水深は約 15～27 m で、底質は測線 8 同様ほぼ砂泥で一部礫の場所があった。大型海藻や海草類は見られなかった。
- 測線 10 の状況：水深は約 3～19m で、底質は砂泥、礫が主体であった。海底をシオミドロ類が覆う状況が広く見られた。一部でホンダワラ類が見られる場所があったが、他はカゴメノリ、フクロノリ等の小型藻類がわずかにみられた程度である。
- 測線 11 の状況：水深は約 13～37m で、砂泥底がほとんどの測線であった。ここでは大型海藻や海草類は見られなかった。
- 測線 12 の状況：水深は約 3～8 m で、一部は礫、ほとんどは砂泥の測線であった。マメタワラ、ヤツマタモクなどホンダワラ類が被度 50%未満で見られたほか、ワカメなども見られた。
- 測線 13 の状況：水深は約 10～21 m で、岩盤、砂泥主体の底質であった。カジメ、ワカメの群落が被度 50%未満で見られる場所があった。
- 測線 14 の状況：水深は約 5m～26m で、岩盤および岩盤と砂泥から構成される底質であった。カジメが水深 10～20m で被度 25%未満で広く見られたほか、岸よりの水深 5m 付近ではサガラメも低被度で見られた。
- 測線 15 の状況：水深は約 10～19m で、岩盤、岩盤および砂泥、砂泥で構成される底質の測線であった。カジメの群落が水深 10～16m で被度 75%未満で広く見られた。
- ※ 測線 5 はデータなし。

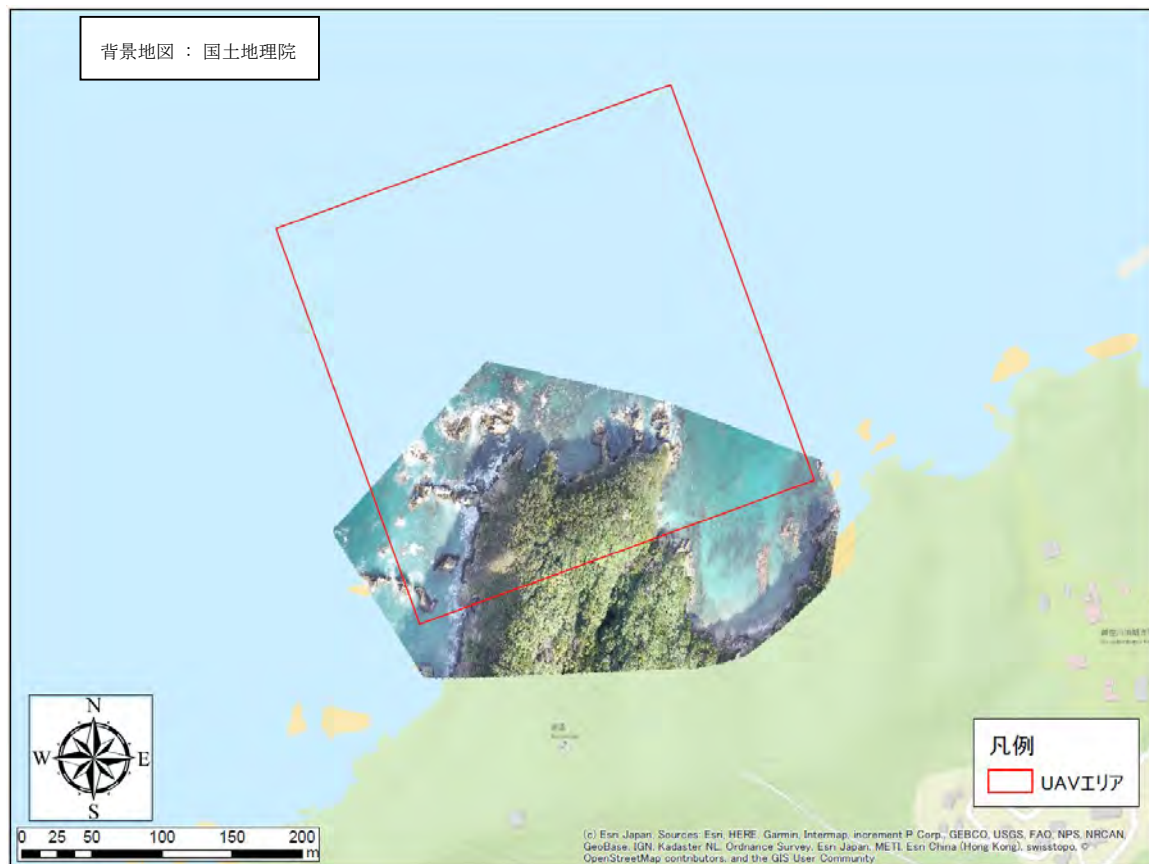
【垂下式水中カメラ撮影】

垂下式水中カメラ撮影の結果は以下のとおりで、岩盤上や礫上の地点では、サガラメ、カジメ、ワカメなどが多く見られたが、サガラメ、カジメは魚類の食害により茎状部のみの個体が多数見られた場所も多く含まれている。

地点番号	水深	主要な構成種	底質	備考
1	5.5	サガラメ	3、1	サガラメ群落
2	2.2	サガラメ、有節サンゴモ	3、1	サガラメ群落
3	11.9	なし	4	なし
4	2.3	サガラメ、有節サンゴモ、ウミウチワ、マメタワラ	4、1	サガラメは茎状部のみの個体が多数みられる。
5	14.2	なし	4	なし
6	14.7	カジメ	4、1	砂場の中に岩盤があり、その上にカジメが群生
7	3.7	サガラメ、有節サンゴモ、ヨレモクモドキ	4、1	サガラメは茎状部のみの個体が多数みられる。
8	16.3	なし	4	なし
9	16.3	カジメ	4、1	砂場と岩場の境目。カジメが群生
10	8.1	ツルモ、フクロノリ、シオグサ	4、3	なし
11	2.4	マメタワラ、フクロノリ、カゴメノリ	3、1	なし
12	3.2	なし	4	なし
13	3.5	なし	4	なし
14	3.5	ツルモ	4	シオミドロ類が海底を覆う。ツルモが点在
15	3.5	ツルモ	4	シオミドロ類が海底を覆う。ツルモが点在
16	0.7	なし	4	なし
17	4.7	なし	4	なし
18	4.8	ヤツマタモク、無節サンゴモ、ワカメ、サガラメ	3、1	切り立った岩礁が隣接
19	1.3	カジメ、ワカメ	4.1	カジメは茎状部のみの個体が多数みられる。
20	12.4	カジメ、ワカメ	4、1	カジメは茎状部のみの個体が多数みられる。
21	16.6	カジメ	4、1	砂場と岩場の境目。カジメは茎状部のみの個体が多数みられる。
22	18	カジメ	4、1	砂場と岩場が混じる。カジメは茎状部のみの個体が多数みられる。
23	8.5	カジメ、無節サンゴモ	1	茎状部のみの個体の一部が見られる。

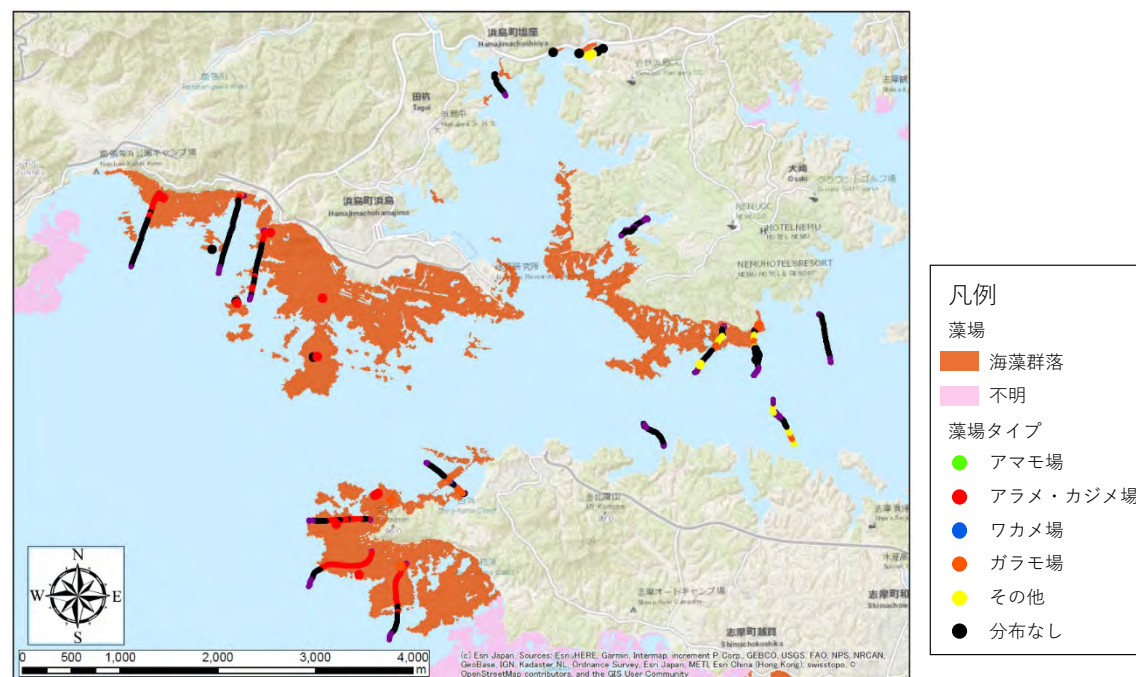
【UAV 撮影】

300m 四方のオーバーラップ撮影の結果、海洋側に基準となるポイントがないことから沿岸の一部でオルソ化された。藻場の有無は不明であった。



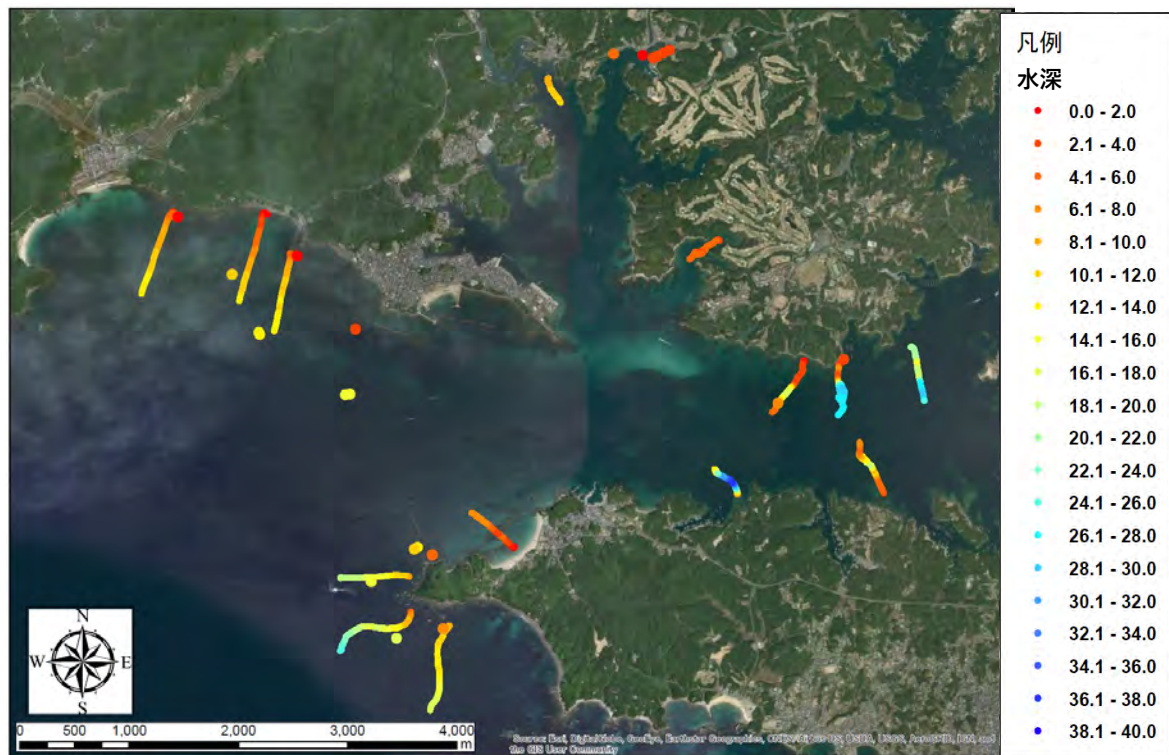
撮影時間	潮位 (m)	風向・風速	波高 (m)	撮影高度 (m)	備考
10:07~10:12	CDL 1.87 m	W 0.4m/s	0.5 m	150m	-

(9) 藻場分布図



【水深分布の状況】

各測線（水中動画連続撮影）、各測点（垂下式水中カメラ撮影）の水深分布は以下の図のとおりであった。



(10) まとめ

英虞湾入口の御座岬を囲む測線（12～15）および対岸の浜島の一部ではカジメ、サガラメのまとまった群落が見られた。また、測線 7 はホンダワラ類の被度が高く特徴的であった。なお、事前に情報のあったアマモ類は見られなかった。水深 10m 以深には外海の測線でカジメ群落がみられた。

一方、測線調査では 6 測線、垂下式水中カメラでは 9 地点で全く藻場がない状態であった。また、海底をシオミドロが覆う状態や、カジメ場やサガラメ場でも魚類の食害により茎状部のみが残る状態が観察された。後日のヒアリングな結果などと合わせると、浜島海域は急速に藻場が変化している海域の一つと思われる。



周辺状況（測線 1）



周辺状況（測線 3）



周辺状況（測線 8）真珠養殖



周辺状況（測線 10）

(11) その他特記事項

調査後に行ったヒアリング（2020 年実施）では、藻場分布域は調査時よりさらに縮退しているという情報も得られている。

※ 本海域のとりまとめは、調査票の様式が作成される前に行っている。このためとりまとめ様式は、H31 以降に行った中部太平洋沿岸海区等の調査海域と異なっている。